

Enigma Sopranino の試聴(2)

—JBL4350A への付加—

1. 始めに

前報(1)に引き続き Enigma の Sopranino を JBL4350A に加えるとどうなるかについて調べてみました。

2. Sopranino の試聴方法

JBL4350A はアキュフェーズのチャンネルデバイダーF-15 において 12.5KHz で切って Pinoneer の PT-R7 を接続し、この PT-R7 にムラタの ES-105 をパラで接続しています。今回は、12.5KHz 以上については下記のような結線の組み合わせが考えられます。なお、音源と再生ルートは前報(1)と同様です。

①PT-R7 と ES-105 にパラレルに Sopranino を結線する。

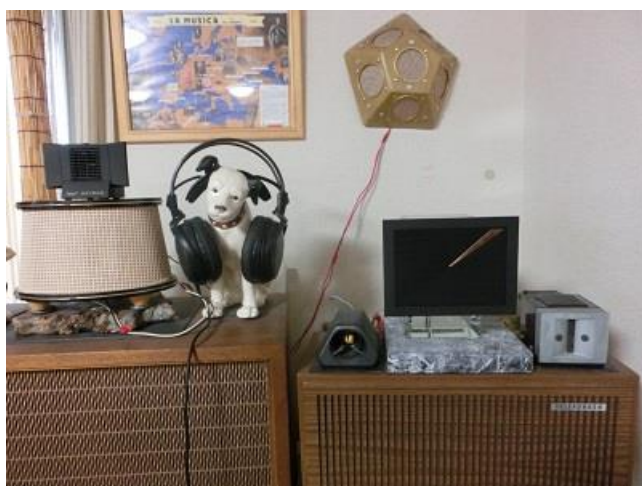
②PT-R7 と ES-105 を外し、Sopranino 単独 を結線する。

③ES-105 を残してパラレルに Sopranino を結線する。

④PT-R7 を残してパラレルに Sopranino を結線する。

前報(1)の結果から④はあまり意味がないことは分かっています。そこで①~③について実施してみました。

3. Sopranino の試聴結果



①PT-R7 と ES-105 にパラレルに Sopranino を結線した場合は、方向としては前報(1)と同様ですが、ES-105 と Sopranino が重なりあって、少し高域が勝ち過ぎ、しかも PT-R7 の能率が高いせいか、前報(1)の場合ほど Sopranino の良さが出てきませ

ん。

そこで、②Sopranino 単独を結線してみますと、①の問題点は解消され、前報(1)のような効果が出てきました。さらに、③ES-105 とパラレルに Sopranino を結線した場合は、ES-105 による音の柔らかさやアンビエンス効果が出てくることは、前報(1)の ES-103A のケースと同様で、改めてムラタのセラミックツイーターの威力を認識した次第です。

4. まとめ

今回は、PT-R7 と Sopranino を入れ替えた時が、もっとも大きな効果が得られました。しかし、クロスオーバーが PT-R7 を想定して 12.5KHz に設定しているため、JBL のツイーター2405 の音が残っており、Sopranino はカットオフを 8KHz まで落とせますので、本来はチャンネルデバイダーのクロスオーバーをもう少し落としたいところです。また、Sopranino の設置場所も専用置台を使って JBL の高域のユニット近くにするとか、クロスオーバーの勾配を-12dB/Oct に設定していますので、もう少し Sopranino の受け持ちを低い方に延ばすために、-6 dB/Oct に設定替えするとか、検討の余地はあるかと思います。チャンネルデバイダーの 12.5KHz 以上のレベルを 1dB 上げただけでも印象は変わりましたので、レベル合わせの見直しや、Sopranino の音色を活かす真空管の選定やアンプの交換など詰めるべき箇所は他にも多々あります。

いずれにせよ、前報(1)の FAL C90EW でも今回の JBL4350A でもスーパーツイーターの Sopranino だけでこれだけ音が変わることは予想外でした。

以上